

情報通信審議会 情報通信技術分科会  
 IP ネットワーク設備委員会  
 技術検討作業班（第 24 回）  
 議事要旨（案）

- 1 日時  
 平成 24 年 5 月 18 日（金）16 時 00 分～18 時 00 分
- 2 場所  
 総務省 第 3 特別会議室（11 階）
- 3 出席者（敬称略）
  - （1）作業班構成員  
 森川 博之（主任）、平 和昌（主任代理）、古谷 之綱、橋本 幸雄、富樫 浩行、山口 五十三、柿坂 寛明、中西 康、室井 保彦、木村 孝、永見 健一、千葉 貢、生宗 正幸（代理）、佐藤 隆明、松石 順應、木原 賢一、菅波 一成、鈴木 和幸、河村 政志、安藤 高任（代理）、千村 保文、佐藤 和紀、森川 誠一
  - （2）事務局（総合通信基盤局 電気通信事業部 電気通信技術システム課）  
 野崎 課長、山路 企画官、篠澤 課長補佐、小林 設備係長
- 4 議事
  - （1）IP 移動電話（VoLTE 等）技術的条件案及び検討課題について
  - （2）ソフトフォン認証案整理及び検討課題について
  - （3）その他
- 5 要旨  
 はじめに、前回議事要旨（案）について各構成員の了承が得られた。  
 技術検討作業班第 24 回会合の議事要旨は以下のとおり。
  - （1）前回及び前々回会合において、IP 移動電話端末（VoLTE）の技術基準について提案した NTT ドコモ、KDDI 及び電気通信端末機器審査協会の 3 者による協議をもとに、技術基準案が取りまとめられ、3 者を代表して KDDI から IP 移動電話端末（VoLTE）における技術基準（案）が説明された。  
 質疑応答は以下のとおり。
    - ：アナログ電話端末と通信する場合の送出電力について、VoLTE 端末が通話以外の用途でアナログ電話端末等と通信する場合は、技術的条件の検討を行うことが適当であると資料の中で説明しているが、通話用途以外でアナログ電話端末と通信を行う端末、たとえばみなし音声を使った端末が出てきた場合は、技術的条件の検討を行うという理解で良いか。
    - ：そのとおり。

- ：自動再発信機能について、たとえば一定時間内の自動再発信回数を制限する機能を IP 固定電話端末と同じように規定する方向で検討しているものと理解してよいか。
- ：自動再発信の制限については、確認して回答したい。
- ：自動再発信機能については、国際標準に規定がないから技術基準に含めないという主旨の説明だったと認識しているが、質問の背景としてはどういった懸念があるのか。
- ：自動再発信が行われることにより、相互接続先事業者の通信設備の処理リソースが消費されることを懸念している。IP 移動電話端末の技術基準に係る検討ではあるが、固定電話用通信設備の処理リソースへも少なからず影響があるのではないかと懸念があり、確認したい。
- ：国際標準にないというだけで技術基準に含まない、という整理も悩ましいところではあるが、日本だけ制限をかけるということは厳しいのではと感じる。しかしながら、第三者的に見て、本当に問題になるのであれば、必要なものは入れるべきと感じるがその辺はどうなのか。
- ：自動再発信機能に関する規制を設けた場合、端末の輸出時の障壁になるかもしれない。
- ：たとえば、日本では再発信せずにつながるが、外国で設備が十分に整備されていないところでは、自動再発信が制限されているばかりに、逆につながる端末になることもあるのではないか。
- ：3G の端末では自動再発信機能の規制があるが、LTE 端末になると規制がなくなっている。これは、移動電話端末等までは 3GPP でそういった議論がされて規制はあったが、LTE 端末は議論の結果、不要になったので外すということか。
- ：そういったことで決めた訳ではない。国際的標準の動向については確認した上で回答する。
- ：普通ならば、これまであった規定を外すには理由がありそうなものだが、どうなのか。
- ：まだ決まっていない、という状況だと理解している。
- ：一般的に固定電話の規制については、外国ではあまりないと聞いている。自動再発信機能の規定については、固定電話には影響があるかもしれないが、移動通信には影響ないということではないか。たとえば、3G 端末では再発信で帯域のリソースを消費されるが、LTE 端末では広帯域になるので影響が少ないと 3GPP が認識しているということが想像できる。
- ：それはトラフィックの話であって、交換系の処理の問題が議論となっている。
- ：3GPP の議論に参加している移動通信関係の者が、移動通信のトラフィックが固定通信の交換系へ与える影響をあまり考えていなかったのではないか。影響を受ける者が議論に参加していたかで分かれたかもしれない。
- ：IMS を管理しているのは携帯キャリアだが、IMS セットアップコスト、データリンクセットアップのコスト、データの帯域確保の三つで考慮しているはず。
- ：IMS では再発信の議論はまだしていないということか。
- ：調べてみないと分からない。

- ：自動再発信機能の規定の背景について調査し、議論も必要だと感じるが、ネットワークとして様々なものに接続している中で、着信側、相手側のネットワークを考慮すると、3G と PSTN には規定があるが LTE には規定がないということは、どう解釈してよいか分からない。
- ：いずれにしても自動再発信機能については、その背景も含めてご質問に対して回答させていただきたい。
  
- ：基本的なことだが、説明資料にある「準用」と「適用」という書きぶりの違いについては何か意味があるのか。
- ：「適用」はそのまま該当するものを当てはめたもの。「準用」という記載は VoLTE に合わせた類似の規定を適用するもの。
  
- ：自動再発信機能について要件は同一番号なので、自動的に複数の番号に対して行う場合は、対象外となる。そうすると、同一番号の発信規制自体が必要なのだろうかと感じる。
  
- ：今後も、引き続き自動再発信機能も含めて議論することとし、VoLTE の技術基準案の提案者それぞれで協議の上、次回会合で検討結果を出していただく。また、それに加えてこれまで提案いただいた VoLTE の技術基準を確認する試験方法を検討する必要があるので、これを橋本構成員にとりまとめいただき、次回会合で提案をお願いしたい。

(2) ソフトフォン認証案整理及び検討課題について事務局から説明された。  
質疑応答は以下のとおり。

- ：インターネットからユーザーがソフトウェアをダウンロードし、ソフトフォンになると想定される。たとえばダウンロードサイトの運営者に直接話をつけ、協力することが現実的な解ではないかを感じる。ユーザーがサイトからダウンロードするときに日本で使用できると記載があれば、信用できるということになるのではないか。ダウンロードサイトが複数存在する Android ではどうするべきか分からないが。いずれにせよ、ダウンロードサイトコントロールという概念が必要だと感じる。
- ：ご質問のとおりダウンロードサイトコントロールを関係者に依頼していくということは非常に重要なポイントと認識している。ただ、依頼するにあたって我が国の法令に基づく依頼でなければ、相手方はなかなか聞いてくれない。なお、ダウンロードサイトコントロールについては、国内外の周知広報の取り組みの一環であると認識している。
  
- ：ソフトフォン認証案についても、関係者とさらなるブラッシュアップしていただいて、次回会合でまとめたものを提示いただきたい。
  
- ：論点としてきれいに整理いただいたが、具体的に論点を踏まえてこうするという具体的なものがないとコメントしづらい。

- ：メールベースでも、検討の途中経過を各構成員に提案いただきたい。
- ：今回示した論点を踏まえた詳細化・具体化を進めて作業班に示す運び。

(3) 事務局から、今後の日程について以下のとおり報告された。

- ・ 第 25 回会合：6 月 19 日（火）16 時 30 分開始予定
  - ※ 技術検討作業班の報告書骨子案・IP 移動電話端末の試験方法についての議論。
- ・ 第 26 回会合：6 月 29 日（金）17 時 30 分開始予定
  - ※ 報告書案についての議論。

以上